

# 独自の企業文化大切に

本紙二〇〇七年十一月二十一日付の「時鐘」欄で「メセナの成熟期」という一文を読み、メセナという言葉が健在であることを知り懐かしかった。という

## 提言

のは、以前私が東京の会社で働いていたころ、このメセナの活動に熱心だったからである。

「メセナ」とはフランス語で「文化の擁護」のことだそうだが、「企業メセナ」などという言葉は一部の人にしか通用しな

株式会社 ヤマガタ  
共同監査役

羽鳥 圭亮



いので、「企業文化」という日

本語を使った方が分かりやすい

から「ヒト、カネ、モノ」。つ

## 責任自覚し 社会と共生

まり人材、資金材料だったが、戦後のある時期からこれに「技術、情報」が加わり、さらに二十年ほど前から「企業文化」が加わるようになった。

当時の私の仕事は経理全般と経営企画だったが、あえて「教育文化部長」を自称し、社員教育に文化講座を取り入れ、社長以下全社員参加の「朝の文化講座」を二カ月に一回の割で一時間実施した。

ところが、それから間もなくバブル経済が崩壊して長い不況が始まったため、企業文化は大企業でも棚上げにされ、私の会社も同様だった。私は定年で退職し、山形県へ移ったこともあり、赤字経営で四苦八苦する会社の実情を見ると、企業文化重くない。(村山市在住)

「シルクロードと中国古代文化」視についての進言は遠慮するしとか、「日本人のルーツをたどる」などを入れた。私の会社は技術系の出身者が多かったせい、文化講座は非常に好評だった。朝の貴重な時間を使って利益にならない文化講座をやる中、小企業は珍しいそう、取引銀行の支店長やテレビ局のディレクターが見学に来たこともあった。

現在、私の関係する村山市の会社は、当時の東京の会社の工場だったので、ここにも企業文化の内容を理解する役員がいて社員教育に力を入れたり、「山形掃除に学ぶ会」で活動したりしている。自分の会社のトイレを自分で磨くことは自分自身を磨くことであり、これも立派な企業文化の考え方だろう。

将来、社会と企業の共生を考えるならば、各企業が利益至上主義に陥ることなく、企業の社会的責任を自覚し、環境や福祉問題に協力しつつ企業文化の活動に取り組みることが重要だ。県内の企業が独自の企業文化をつくり上げることができれば、県全体の文化が本物になるにちがいない。

## 食品の期限を正しく知ろう

川西町 高橋孝司 42歳  
先日、わが家の子供たちがプリンをおいしく食べた後、ふたに印刷されている賞味期限が昨日までだったことに気が付い

が切れた食べ物は口にしないで。最近行政が消費者を守るための監視をしてくれるので、表示を信頼して食品が購入できるようにになったものの、偽装表示や賞味期限切れの食品販売は後を絶たず、連日のように報道さ

した。最近行政が消費者を守るための監視をしてくれるので、表示を信頼して食品が購入できるようにになったものの、偽装表示や賞味期限切れの食品販売は後を絶たず、連日のように報道さ

なつたのではないでしようか。今の日本ではまだ十分安心して食べられる食品でも賞味期限が過ぎればいや応なしにどんどん捨てられていきます。その一方で、日本の食料自給率は40%を切り、外国に

ません。しかし、私たち消費者はもっと「賞味期限」について正しい知識を持ち、また食べられる

ものは安易に捨てないよう心かけた方がいいものではないか。父に怒鳴られた時代があったことを、わが家の子供たちに教えていきたいと思ひます。

も幾歳月といいますが、あれから二十年の歳月。流れの早さに驚いていまうことができませんが、

てしようがないと娘から写真が送られてきました。他県に住んでいて今うことができませんが、

平成も20年目  
政治頑張る  
鶴岡市